

平成 25 年度

学科試験総評・コメント (前半の部)

1 級建築施工管理技士

1 級建築施工管理技術検定試験における問題の出題内容に関する講評 (W)

全般：本年度の問題は、過去 3 年分の問題が理解できれば、7 割以上解答できる内容です。

記号：◎出題頻度が高い、○良く出る問題、□普通の問題、△やや難問、▲かなり難問、

■以下に記載する総評・コメントは、本試験実施団体によるものではありません。受験者の参考に資するための当社の試案によるものです。

2013/6/21

- No.1 壁体内の中空層を大きくしても断熱効果は増大しない。対流が生じ内部結露も！ ◎
No.2 側窓の高さが違うと、室内照度 (ルクス :lx) の均斉度は変化する。 ○
No.3 マンセル表色法の有彩色の記号は、5RP(色相) 3(明度) / 8(彩度)を意味する。 ○
No.4 「重心」と「剛心」の違いを理解しておくこと。迷った時は、消去法で…！ ○
No.5 梁貫通孔の孔径は、梁せい(成)の 1 / 3 以下は、出題頻度が高い問題！ ◎
No.6 高力ボルト接合の耐力は、接合面の摩擦接合によって保持される。 ○
No.7 杭基礎における杭間の中心距離は、埋込み杭より打込み杭の方が大きくなる。 □
No.8 鉄筋コンクリート部材の軸力計算の問題。単純な面積比の計算。 △
No.9 当該ラーメン構造の曲げモーメントは、ピンの位置で 0 となる。計算不要。 ○
No.10 架構の曲げモーメント図から支持点の反力計算を行う問題。簡単な釣合い問題。 □
No.11 鋼材の炭素量が増加すると、粘りが減少して脆くなる。出題頻度が高い。 ◎
No.12 凝灰岩は、火山灰が固まったもので、軽くて加工しやすいが、耐久性に劣る。 ○
No.13 金属製の可動サッシとドアセットに規定された性能項目に関する問題。 ▲
No.14 2 成分形シーリング材は、硬化剤により反応硬化。1 成分形は、自然に硬化。 ○
No.15 フローリングブロックは、正方形に組合せた単層フローリング床材のこと。 □

No.16 アスファルトの敷均し温度は、一般に 110℃ を下回らないようにする。 ○
No.17 300V 以下の場合、D 種接地工事、300V を越える場合、C 種接地工事とする。 □
No.18 単一ダクト方式には、CAV 方式 (定風量) と VAV 方式 (変風量) がある。 ◎
No.19 一般的なエスカレーターの定格速度は、30m / 分である。高速でも 40m / 分。 △
No.20 請負代金額の変更等は、代表者の権限であり、現場代理人の印鑑では不可。 □

No.21 乗入れ構台は、基礎構造等に合わせて配置する。施工機械、車両では決めない。 ◎
No.22 圧密試験は、砂質土に不適。一次元の圧縮試験で、透水性の低い飽和土が対象。 ○
No.23 親杭の根入れ部分は、受働抵抗を十分発揮させるために直接打込みまたは圧入。 △
No.24 専用のワイヤーロープで 60 度以内の吊り角度で 2 点掛けにして吊り上げる。 △
No.25 SD345、D19 の鉄筋端部の折り曲げ内法直径は、4 d 以上。 ○
No.26 1 種は、鉄筋径 25mm 以下。D29 (異形鉄筋径 29mm) は、ガス圧接 2 種以上。 △
No.27 長期許容応力度と短期許容応力度の平均値を用いる。過去問題に出題あり！ ◎
No.28 細骨材率が大きくなると、比表面積が増え、単位セメントと単位水量が増える。 ◎
No.29 暑中コンクリートの荷卸し時の温度は、原則として 35℃ 以下とする。 △
No.30 高力ボルトの摩擦面の表面粗さは、ショットブラスト等で 50 μ mRz 以上。 ▲
No.31 気温 - 5℃ 以下では溶接を行わないこと。 ○
No.32 湿地ブルドーザーの平均接地圧は、普通ブルドーザーの半分程度である。 □
No.33 完全スリットは、袖壁の全厚を切断してスリット材等でシール。過去問題あり！ ◎

No.34 加硫ゴム系ルーフィングシート接合部は、接着剤を用いて重ね、端部処理する。 □
No.35 ウレタンゴム系塗膜防水の通気緩衝工法による脱気装置は、50 m² に 1 台設置。 △
No.36 タイル密着張りは、下地の張付けモルタルに振動機でタイルを密着させる工法。 ○

- No.37 重ね形折板の重ね部分の緊結ボルトは、流れ方向の間隔を 600mm 以下とする。 □
- No.38 上部ランナーとスタッド天端とのすき間は、10mm 程度とする。 □
- No.39 複層塗材 E は、吹付け工法である。 □
- No.40 鋼製建具の両面フラッシュ戸は、下部を除いた 3 方を表面板で包む。 ▲
- No.41 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りにおいて、中塗りは不要。 △
- No.42 熱溶接機を用いてビニル床シート相互と溶接棒を同時に熱溶融して溶接する。 △
- No.43 硬質ウレタンフォーム吹付け厚さが 30mm を超える場合は、多層吹付とする。 □
- No.44 アルミ合金の寸法許容差は、± 5mm である。かなり難問。 ▲
- No.45 ビニル床タイルにダイヤモンドカッターは使用しない。常識問題。 ◎

解答試案に対する質問・ご指摘は下記宛てにお願い致します

T G K (株) 東北技術検定研修協会

仙台市青葉区二日町13-26 TEL022-738-9312 FAX022-738-9365 info@tohokugiken.com